

特別講演 2

「COPD の治療戦略 ―増悪を制する者が COPD を制する―」

横浜市立大学医学部 呼吸器病学教室 主任教授

金子 猛 先生

COPD の病態は極めて複雑であり、不均一で多様性を有している。近年、COPD の管理上重要な病態として、増悪に大きな関心が寄せられている。COPD の増悪とは、息切れの増加、咳や喀痰の増加、胸部不快感・違和感の出現あるいは増強などを認め、安定期の治療の変更あるいは追加が必要となる状態をいう。増悪は、QOL と呼吸機能の低下をもたらし、生命予後にも直結することから、増悪を繰り返す phenotype を見つけ出し、増悪抑制を目指した治療を行うことが重要である。COPD 治療の基本となる薬剤は、長時間作用性吸入気管支拡張薬であり、長時間作用性抗コリン薬および長時間作用性 $\beta 2$ 刺激薬が第一選択薬として用いられ、いずれも増悪に対する予防効果を示すことが知られている。この他、徐放性テオフィリン、マクロライド系抗菌薬、喀痰調整薬、PDE4 阻害薬にも増悪予防効果が期待できる。これらの治療によって増悪を制することができれば、COPD の病態を制することが可能になると考えられる。